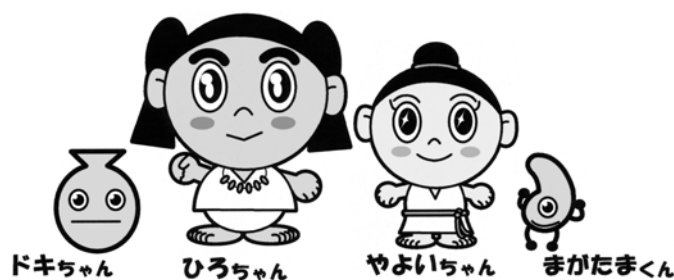


平成24年度 ひろしまの遺跡を語る
中国山地の旧石器文化を考える
ー移動生活と運ばれたモノー
記録集



平成25(2013)年
公益財団法人広島県教育事業団

開会ごあいさつ

財団法人広島県教育事業団

理事長 大原 節雄

皆さん、おはようございます。本日は、「平成24年度ひろしまの遺跡を語る会」を開催いたしましたところ、皆様には早朝から御参加いただき、まことにありがとうございます。

このひろしまの遺跡を語るという催しは、私どもが行った発掘調査の成果をいち早く県民の皆様に御紹介したいとそういった考えから、昭和62年から第1回目を始めまして、

本日お越しの皆様や多くの考古学ファンの御支援によって、今回で33回目を迎えました。近年では、新春の恒例となっている文化イベントでございます。

さて、今回は、県内の旧石器時代の遺跡にスポットを当てまして、「中国山地の旧石器文化を考えるー移動生活と運ばれたモノー」というテーマで開催をいたします。

まず、当事業団職員3人によりまず事例報告や研究発表ののち、旧石器時代の研究が御専門の広島大学総合博物館教授の藤野次史さんに旧石器時代に生きた人々の暮らしについてわかりやすく講演をしていただきます。

続きまして、島根県古代文化センター長の丹羽野裕さんには、山陰地方における最新の研究成果に基づいた基調講演をお願いしております。

これに引き続きまして、藤野先生をコーディネーターに、シンポジウムを行いまして、さらに議論を深めてまいりたいと考えております。

当事業団といたしましては、これからも本日のこのひろしまの遺跡を語るなどの機会を通しまして、日ごろの発掘調査や調査研究の成果の公開に努めてまいります。

今後とも、私どもの埋蔵文化財の調査研究、そしてこれを継承していく取り組みに対しまして、より一層の御理解と御支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



目 次

開会あいさつ	(1)
事例報告Ⅰ「和知白鳥遺跡（三次市和知町）の発掘調査」	
調査研究員 山田 繁樹さん	(3)
事例報告Ⅱ「只野原3号遺跡（庄原市高野町）の発掘調査」	
事業調整監 青山 透さん	(17)
研 究 発 表「備北地域の旧石器時代遺跡」	
調査研究員 辻 満久さん	(27)
基調講演Ⅰ「旧石器時代の環境とくらし」	
広島大学総合博物館教授 藤野 次史さん	(44)
基調講演Ⅱ「山陰から中国山地の旧石器文化」	
島根県古代文化センター長 丹羽野 裕さん	(88)
シンポジウム「中国山地の旧石器文化を考える」	
コーディネーター 広島大学総合博物館教授 藤野 次史さん	(124)
閉会あいさつ	(145)

平成24年度 ひろしまの遺跡を語る「中国山地の旧石器文化を考える」

【日程】平成25年1月19日（土） 10：00～16：30

【会場】広島県民文化センター 多目的ホール 広島市中区大手町1－5－3

【内容】

10：00～10：10 開 会 行 事

10：10～10：40 事例報告Ⅰ「和知白鳥遺跡（三次市和知町）の発掘調査」

調査研究員 山田 繁樹さん

10：40～11：20 事例報告Ⅱ「只野原3号遺跡（庄原市高野町）の発掘調査」

事業調整監 青山 透さん

11：20～12：00 研 究 発 表「備北地域の旧石器時代遺跡」調査研究員 辻 満久さん

13：00～14：00 基調講演Ⅰ 旧石器時代の環境とくらし

広島大学総合博物館教授 藤野 次史さん

14：00～15：00 基調講演Ⅱ「山陰から中国山地の旧石器文化」

島根県古代文化センター長 丹羽野 裕さん

15：20～16：20 シンポジウム「中国山地の旧石器文化を考える」

コーディネーター 広島大学総合博物館教授 藤野 次史さん

パネラー 丹羽野 裕さん，山田繁樹，青山 透，辻 満久

16：20～16：30 閉 会 行 事

全体司会

調査研究員 川崎真二

※関係出土品を会場のロビーで展示

<主催> 財団法人広島県教育事業団

<後援> 広島県教育委員会，広島市教育委員会，中国新聞社，NHK広島放送局

（表紙写真は 右：和知白鳥遺跡と出土遺物（広島県立埋蔵文化財センター提供）

左：原田遺跡と出土遺物（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所蔵）

事例報告Ⅰ「和知白鳥遺跡（三次市和知町）の発掘調査」

埋蔵文化財調査室 調査研究員 山田 繁樹

おはようございます。トップバッターなのでちょっと緊張しております。発掘調査の事例報告を行う山田繁樹です。よろしくお願いいたします。

私の資料は、1ページから14ページまでです。報告の詳しいことについては、ここに書いております。今からの発表は、写真で資料の内容を簡単に説明したいと思いますので、よろしくお願いいたします。



それでは、画像のほうに移ります。和知白鳥遺跡の発掘調査は、平成18年に古墳時代の調査を行いました。遺跡は、中国自動車道と中国横断自動車道尾道松江線のインターチェンジに当たる部分になります。遺跡周辺の丘陵には、多くの古墳群や5基の四隅突出型墳丘墓で構成される陣山墳墓群、古代三谿寺と推定される寺町廃寺跡があり、三次市内でも広島県みよし風土記の丘にある常楽寺・セツ塚古墳群に匹敵する古墳や遺跡が密集する地域になります。

旧石器時代の遺跡というのは、遺跡の数が少ないため、私たちも調査する機会も少ないですし、なかなか皆様方にも目に触れることがないかもしれませんが、今日は大変よい機会ですので、一緒に学ぶことができたらと思っています。

発掘調査報告書は、調査が終わって、平成23年に旧石器時代の報告書、去年（平成24年）の3月に古墳時代の報告書が刊行されております。

【スライド1】の中央の道路が中国自動車道、南側が今から報告する和知白鳥遺跡になります。点線の範囲が旧石器時代の遺跡範囲で、中国自動車道の北側にある段遺

跡や風呂谷遺跡でも旧石器時代の遺跡を調査しております。

遺跡が立地している環境としては、同じ丘陵上に南北に点々と旧石器時代の遺跡が分布している状況となります。

【スライド2】は、和知白鳥遺跡を上空からみたものです。古墳時代の調査が終って撮影したのですが、尾根の頂部中央のあたりが湿った状況になっております。この部分は火山灰が良好に堆積しているため、水分がなかなか抜けない状態を示しています。この湿ったブロックの中から広島県教育委員会の試掘調査で旧石器時代の遺

物が確認されていたことから、本調査を進めるために、湿ったブロックの中で石器や剥片等があるかないかの確認をして、遺跡の範囲を確定するために一次調査として試掘調査を行いました。

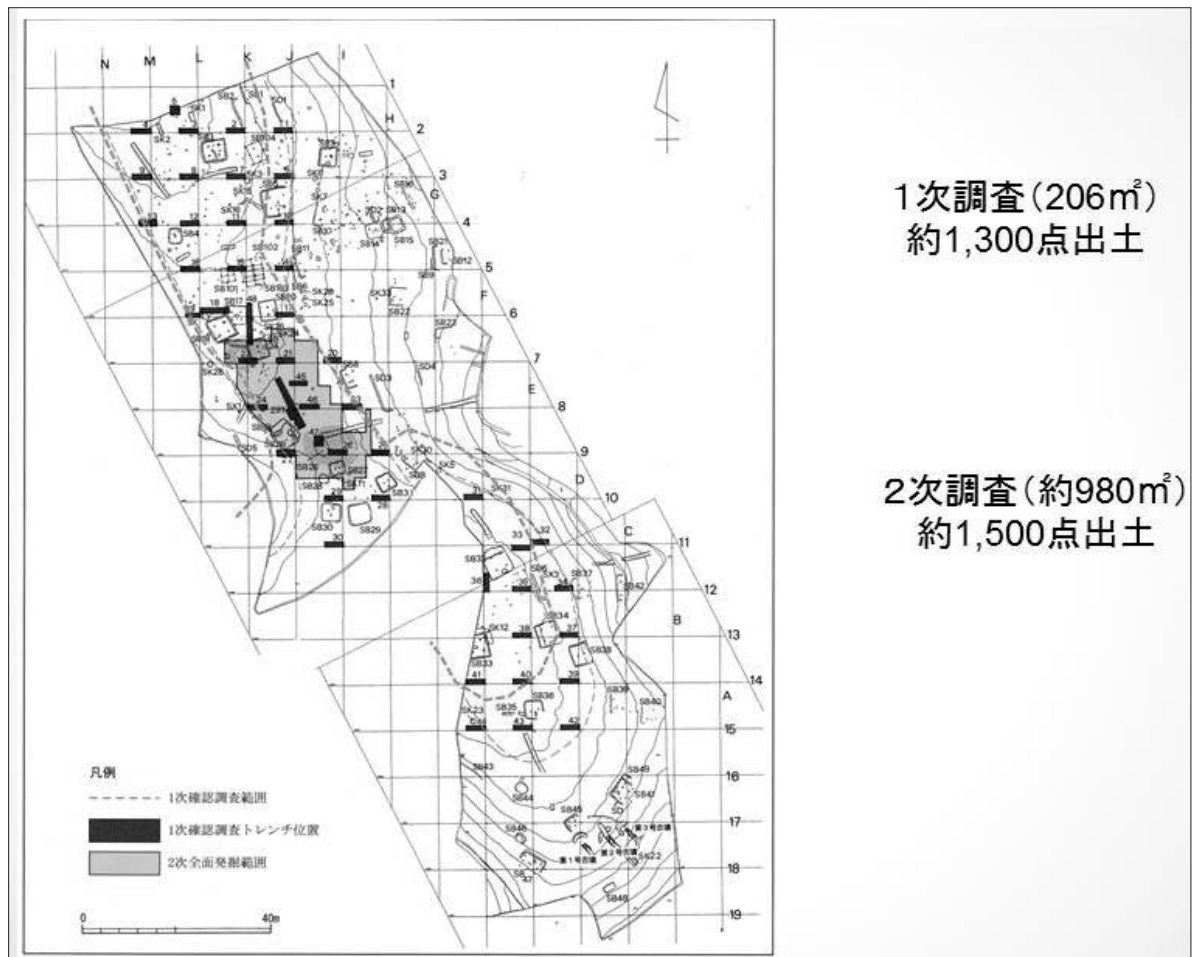
【スライド3】は試掘調査の範囲を図面にしたものになります。太い点線の部分が試掘をした範囲で、黒い四角が試掘坑を設定した場所になります。試掘のためのトレンチは、49箇所を設定しました。その結果、中央よりやや左側周辺を旧石器時代の集落の範囲と設定しました。



【スライド1】和知白鳥遺跡近景



【スライド2】和知白鳥遺跡近景2

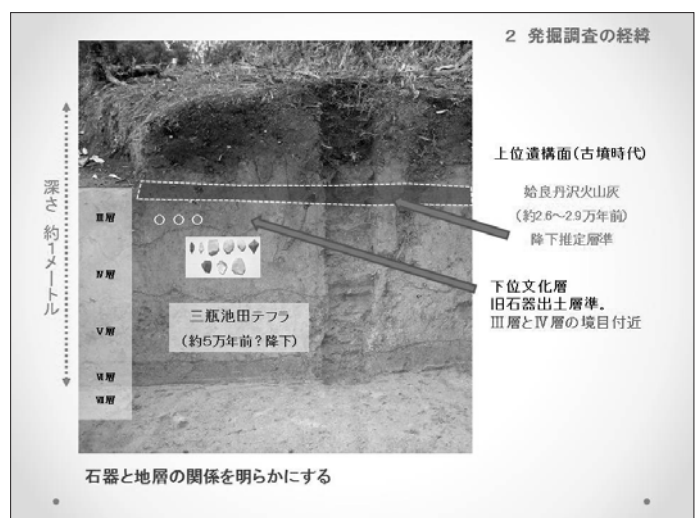


【スライド3】石器の出土位置図

一次調査では、206㎡の調査面積で約1,300点の遺物が出土しています。それをもとに調査範囲を設定した二次調査では、約980㎡の調査面積の中で、約1,500点の遺物が出土しています。

ただし、出土した点数は合計2,800点ぐらいにはなるのですが、目にみえる石は、全て取り上げましたので、全てが石器ではありません。石器や自然石も含めた合計の数になっております。

次にこのような石が、こういった層から出てくるのかという説明



【スライド4】和知白鳥遺跡層序

になりますが、【スライド4】の上位遺構面というのは古墳時代の集落跡になります。住居跡などが確認できた面は、黒い土と黄色い土との境付近になります。この面の下に、黄色い吉備土とか言われる層があり、その層の下に黄色い点線で示している部分があります。これが今から発表される皆さん方からも発言があると思いますが、始良丹沢火山灰の層になります。これは鹿児島県の始良火山が爆発したときの火山灰で、始良火山から東側の北海道を除くほぼ日本全域でこの火山灰が確認されています。その下の第Ⅳ層、第Ⅴ層が島根県の三瓶山が噴火した火山灰で三瓶池田テフラと呼ばれている層になります。試掘調査は、この層を含めて第Ⅶ層の上面まで掘り下げました。和知白鳥遺跡は、始良丹沢火山灰層より下、【スライド4】の第Ⅲ層とⅣ層の境目ぐらいで円形の示したこの深さ付近から、石器類が出土しています。

その他に、誰が見てもこれは石器だな。石器をつくったときの剥片だな。といった遺物以外に、そこに転がっている石と見極めがつかないような石も結構出土しています。出土した石が、これは人工品か人の手が加わったものなのか、自然石か見極める必要がありますよね。

このことから一次調査では、第Ⅶ層の上面まで掘り下げ出土した石は全て持ち帰り、石器かどうかの確認や石材の種類や石の重量・石の出土した層の傾向をみて、判断の材料としました。

1次調査の分析

3 出土品の整理

形態	出土品数量（上段：点数，下段：％）		
	上位出土品群 （Ⅲ層及びⅣ層上部）	中位出土品群 （Ⅳ層及びⅤ層）	下位出土品群 （Ⅵ層）
1類	80	6	39
	16.8％	3.4％	8.1％
2類	353	159	339
	74.3％	89.8％	70.2％
3類	31	11	101
	6.5％	6.2％	20.9％
4類	11	1	4
	2.3％	0.6％	0.8％
合計	475	177	483
	100％	100％	100％

【スライド5】出土品数量・層位形態別一覧表

【スライド5】は、資料5ページの表2と同じ表です。表1で出土した石の形態から1類から4類というふうに大まかに分類しております。1類から3類は全体的に礫

としての自然面が残るもので、1類は扁平な石、2類が丸みを帯びた方形な石で、3類が球状で厚みのある石です。第4類が、先ほど言いました石器とか、石器をつくったときの剥片等です。これらの1類から4類の石を出土した層から上位出土品群・中位出土品群・下位出土品群の3つに分けて、それぞれの層から出土した点数を全部数えました。基本的にIV層からVI層は石器が出土しない層なので、中位出土品群と下位出土品群は、自然石となります。だから、Ⅲ・IV層上面から出土した上位出土品群が検討する対象となります。特に出土した点数の多い第2類の石が自然石か石器あるいは使用された物かの評価が問題となります。表では上位出土品群と下位出土品群とがほぼ同じ点数が出ている状況というのが見てとれます。上位出土品群と下位出土品群が出土した層の間にある層は、先ほどの【スライド4】のIV層・V層で、厚さが60cmぐらいありました。石の大きさにもよりますが、下位の層からそのまま自然現象によって、60cmも上位に上がっていくというのはまず考えられないので、上の層から出てくる大きい石は、全て人が関わったものというふうに考えるのが自然じゃないかなという判断をしました。こうした結果が前提にあって、二次調査を行いました。二次調査は、Ⅶ層までは掘らずに、【スライド4】のV層の上面までの掘り下げをしております。

【スライド6】が二次調査の時の遺物出土状況です。大体、石が



【スライド6】遺物の出土状況



【スライド7】遺物集中部の位置関係

出てきている位置というのは、ほぼ同じ高さになります。土層を観察する為のアゼの上面が調査前の地表面で、この面が古墳時代の住居跡を確認した面になります。ほぼ直下に近いような状態のところから、このような状況で石が出てきています。



【スライド8】石器の種類

【スライド7】は調査後の写真になるのですが、先ほど紹介した多くの石が出土した範囲をみると点線で示したように6箇所に集中していることが確認できました。

【スライド8】の図面でみると、左上のナイフ型石器とか、右上の台形の形をした石器とか下段左の楔形石器などが、この右側の6箇所のブロックの内、濃いブロックから出ています。



【スライド9】石器の編年

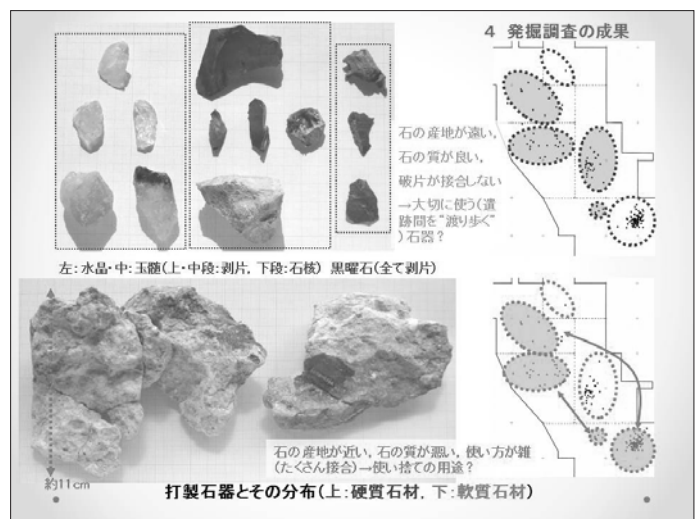
次に石器の時期を考えます。基本的には、始良火山灰層より下層から出てきているので、旧石器時代には間違いはないのですが、その細かい時期ですよ。旧石器時代のいつごろに当たるのかというのを考えなければならないときに、今回の調査で出てきたこういった石器の形態とか、石器がこういった組み合わせで出てきているのかというのを確認します。

そこで、【スライド9】の石器の編年を参考にしました。時期順に色々な形が変化していることがわかります。この編年表は、昼から発表される藤野さんが考えられたものです。和知白鳥遺跡から出土した石器でも小さいもの。少し形のいびつな台形様石器と呼ばれているものが、ちょうどこの表の中の第1期前半の部分の点線で囲ったものと形や組み合わせがほぼ同じで、形態もよく似ているということから、和知白鳥遺跡の石器はこの編年表で第1期の前半に当たり、後期旧石器時代の前半に該当するということになります。この時期は、丹羽野さんの資料の57ページの右側の下にある中国山地の後期旧石器時代の編年図の1期のAと同じ時期になると思います。

ここで一応、和知白鳥遺跡の旧石器時代の時期は、始良火山灰層より下層から出てきているということと、石器の形態を今までの研究の成果を基にすると後期旧石器時代の前半期という時期をおさえることができました。

次に、調査でどのような種類の石器が出てきているのか。調査をして、何がわかったのかということをお話したいと思います【スライド10】。

出てきた遺物の中には、材質の硬いものと柔らかいものの2種類があります。上段が硬い石になります。左側が水晶、右側が黒曜石で、中央が玉髄と呼ばれる石になります。上の4点は剥片ですが、

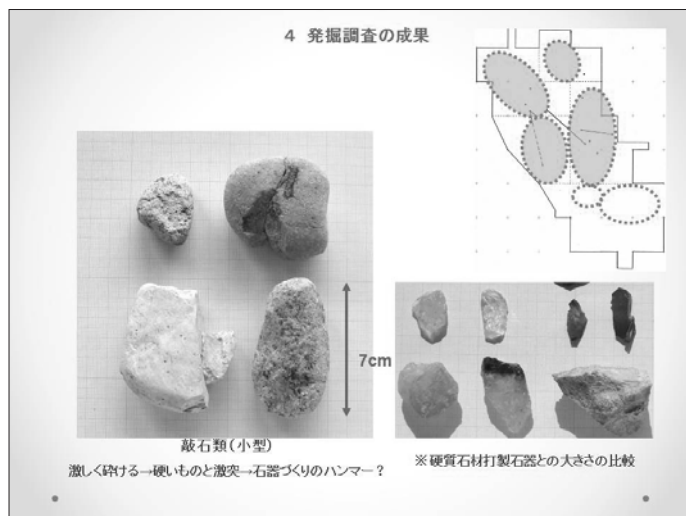


【スライド10】 打製石器とその分布

下は石核です。調査の時はまだ玉髓という石材を詳しくみたことがなかったので、最初、石材は自信がなかったのですが、藤野さんにみて頂いたら玉髓に間違いはないということでした。右側は黒曜石です。黒曜石は全て剥片でした。これらは、先ほど説明した6つのブロックの中でも、右側の濃い部分の4つのブロックから出ています。

下段の石材は、角を持つと割れるぐらい非常にやわらかい石材です。この軟質の石材は、右側の図面の矢印で示しているように、ブロック単位で相互に接合関係がみられました。この石材は、三次近辺でよくみかける石です。遺跡のすぐ近くにお墓があったのですが、そのお墓の整地をする時にバラスと呼ばれている小石が敷きつめてありました。その中にも遺跡から出た軟質の石材と同じ石がたくさん使われていました。ということから、県北地域では、この軟質の石というのがたくさんみられることから、多分、近くから採取して使用したのだろう考えられます。柔らかいと言っても、風化しているので、割ったときは、ある程度の固さというのはあったと思います。実際に墓で使われている石もある程度は固かったです。このように、調査では、硬い石材を使った石器と柔らかい石材を使った石器の2種類がでてきます。

次に、石器の中に【スライド11】の左側のような敲石という石器がありました。大体長さが7cmぐらいの小型のもので、左下のように割れているものが多くありました。この写真は、割れて出土したものを接合しています。右上の敲石も接合しています。このように石が



【スライド11】敲石とその分布（1）

割れるということは、硬いものと衝突した結果、割れたということが考えられるので、小型の敲石は主には石器づくりの時に、塊状の大きな石を最初に割って、大きな破片をつくるときにの道具だったのではないかと考えられています。

次に、敲石でも大型のものも出ています。先ほどの小型のものが7cmぐらいの長さでしたが、【スライド12】の下段の中央の敲石は長さ15cm、大きいものでは20cmのものも出ています。これらは、右上の図の6箇所のブロックから、少しずつではありますが、全域から出ています。大型の敲石の用途は、小型の敲石が石器をつくる時のハンマーのような道具として使ったと考えられるのに対して、大きいということもありますので、石器づくり以外の道具として使ったものではないかと考えられます。小型の敲石は、欠けたり割れたりしたものが多いのに対して大型のものは欠けや割れた痕跡が少ないと言えます。

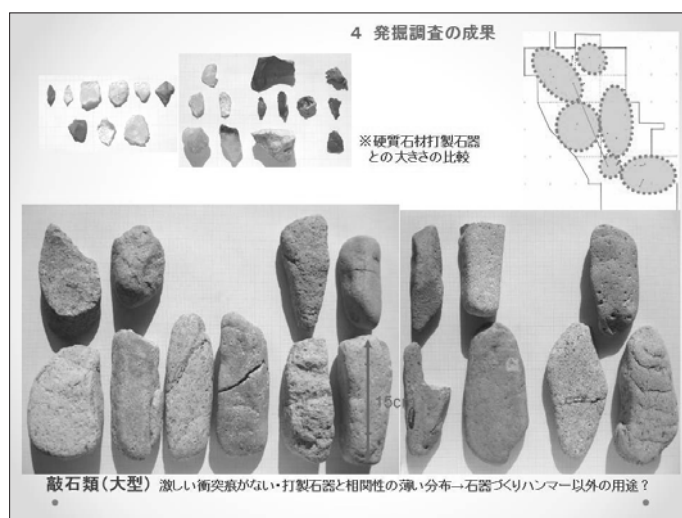
しかし、敲いた痕跡以外に擦ったような痕跡が認められるものもあります。

【スライド13】の石ですが、使用痕は全然ないのですが、大きさが20cmぐらいの大きい石（配石）です。

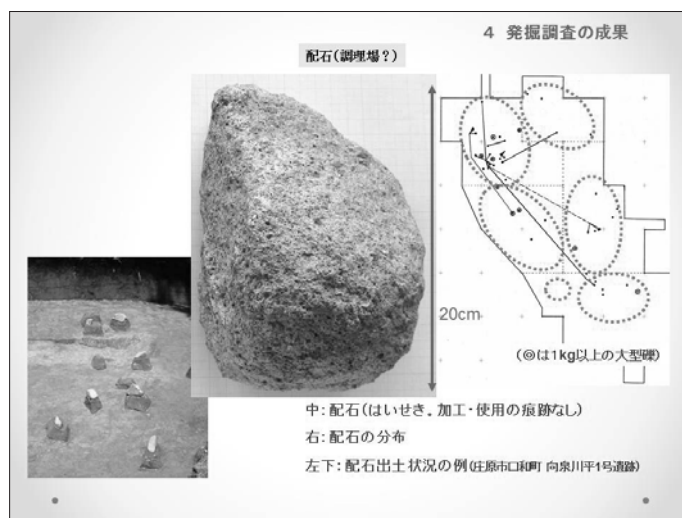
この様に大きい石が並べられたような状態で出ています。右側の図面の黒い点が大型の石になります。左の写真は、庄原市口和町で調査をした向泉川平1号遺跡での

出土状況の例です。このように大きな石を並べているのは、調理とかに使われた場所ではないかと、今のところは考えられています。

以上、これまで、調査で出てきた石材の種類を紹介してまいりました。

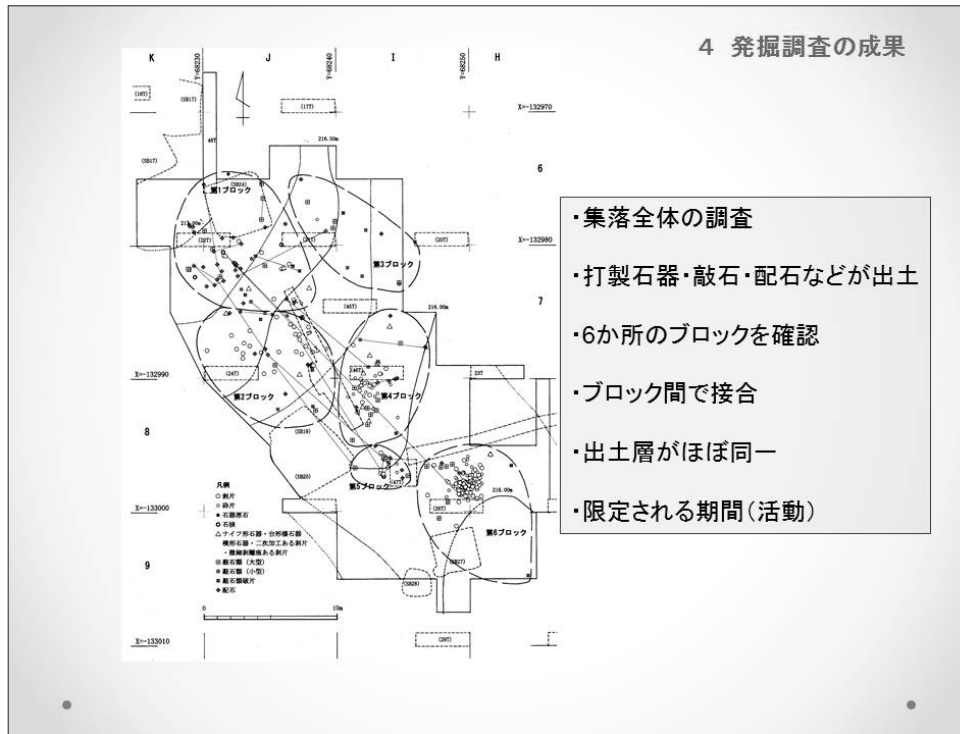


【スライド12】敲石とその分布（2）

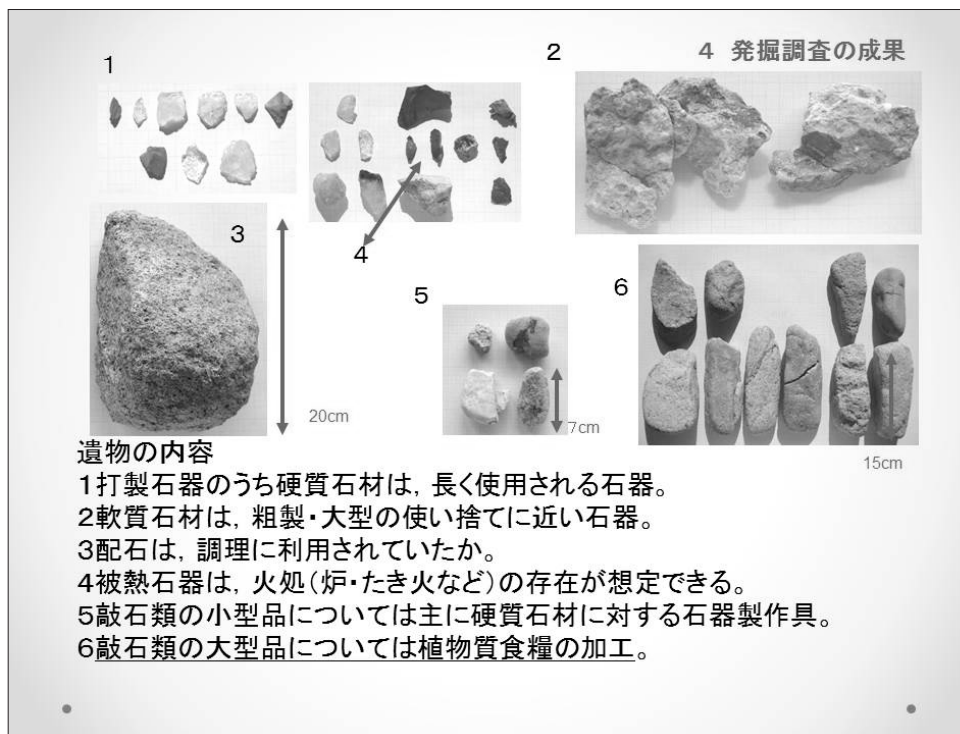


【スライド13】配石（調理場？）

次は今回の調査で、どんなことがわかったのか、まとめてみたいと思います【スライド14】。まず、古墳時代の遺構調査が終わって、試掘調査によって旧石器時代の遺跡の範囲を約1,000m²に決めたので、旧石器時代の遺構のほぼ全部を調査したという事



【スライド14】和知白鳥遺跡の石器出土状況



【スライド15】遺物の内容

が言えると思います。今までの旧石器時代の調査は、遺構の一部の調査であるとか、たまたま石器のみが出土したという例が多かったのですが、今回の調査は遺構全体の調査をしたというのが成果の一つであると思います。

次に、打製石器を作る時に、硬い石を割った敲石であるとか、大型の敲石や配石などバラエティに富んだものが出てきているということ。石器が6つのブロックに分かれて出土していることが確認できたということと、ブロック間で接合関係が認められたこと。もう一つは、石器が出てきた層が同じ層であるということから、当時の人々がここで活動した期間というのがほぼ同じ時期といえますか、同じ期間であると考えられることも今回の調査の大きな成果だと思います。

遺物の内容をもう一度、【スライド15】でみてみますと、1番の硬い石で作ったものは、長期間使う大事な道具としての石器であるということ、2番の軟らかい石でつくったものは、割れやすいこと、作り易いということもあったりするので、必要に応じて作り、使ってしまったら、もうその場に捨ててしまうような石器ではと考えています。3番の石材のような大きな石が並べた状態の配石というのは、調理に使ったのではないかと考えられます。調理といっても、台として使用する使い方もあったと思われます。

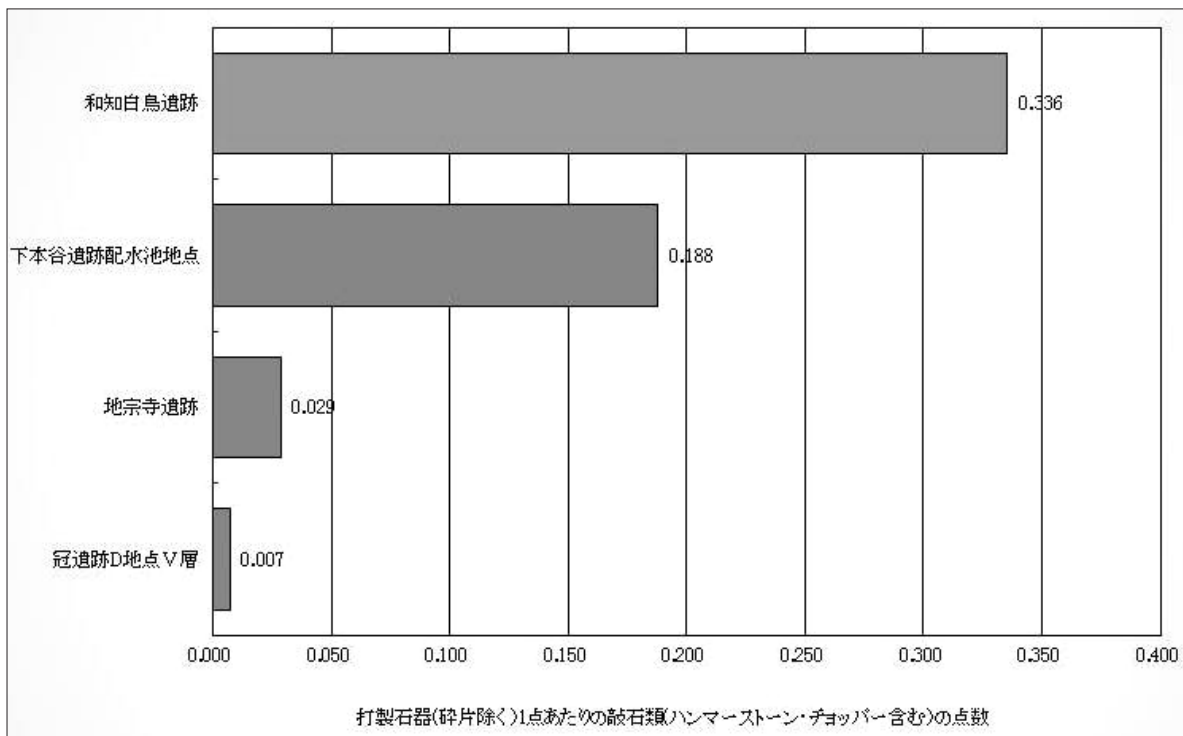
4番の矢印の部分、これは先ほど説明した玉髓という石ですが、玉髓は火を受けると表面が赤く変色するそうなんです。この部分が赤く変色していることから、石が出土した付近で火を使ったことが考えられるので、炉であるとか、焚火をした痕跡の証拠になるかと思われます。

小型の敲石については、主に石器をつくる道具の一部であったろうと考えられます。もう一つの大型のものは、両端に割れが余りないということから、植物質の食料を割ったりとか、軟らかいものを割ったり、こねたりする道具と考えられており、和知白鳥遺跡の大型の敲石も同様の使用法が考えられます。

今回の調査の一番の成果ということになりますが、敲石という石器が出てきた量が

ほかの遺跡に比べて多かったということです。

【スライド16】のグラフは、今回の調査で出土した打製石器、硬い石器、石を割ってつくった石器の数を、敲石の数で割った表になります。資料の12ページに詳しく書いております。グラフの一番上が和知白鳥遺跡で、敲石の量が多いことがわかります。二番目の下本谷遺跡は従来から、敲石が多く出土していることは知られていましたが、それに比べても2倍近いぐらいの量の敲石類が出ています。冠遺跡とか、地宗寺遺跡



【スライド16】和知白鳥遺跡の特徴

もわずかしかない。和知白鳥遺跡は圧倒的に敲石の量が多いというのか、特徴と言えます。この状況が何を示しているのか。考えてみますと、【スライド17】のように、従来、旧石器時代というイメージは、狩猟中心の活動が行われていたとみられがちでした。今回の調査によって、大型も含めて敲石が他の石器と比べて多く出ていることから、狩猟だけではなくて、もっと、植物質の

4 発掘調査の成果

敲石の大型品が多い。



旧石器時代
・狩猟中心とみられがちだった。
・植物質などを加工した比重が高い。

【スライド17】旧石器時代のイメージ

ようなものを加工した活動の比重が高いといえます。今までは、本でもよく書いてあるような狩猟中心だったイメージでしたが、もう少し植物質を加工した比重が高いのではという集落での食生活のイメージです。つまり、今回の調査で、当時の生活の様子が従来のイメージと違うことがわかったというのも大きな成果だと思います。最後に出土した石器の石材の産地は、蛍光X線を使った科学的な手法を用いて分析してもらったところ、【スライド18】

の右側の黒曜石は、島根県の隠岐で産出したもの。中央の上の玉髄は同じく島根県の花仙山が産地の可能性が高いこと。左側の安山岩は、広島県の冠山で産出されたもので、その地域から運ばれてきた石を使用していたということがわかりました。



【スライド18】和知白鳥遺跡の石器とその石材産地

トップバッターということで緊張しておりましたので、早口でわかりにくかったかもしれませんが、これで事例発表は終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

出典一覧

スライド1：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の図版19より作成

スライド2：広島県立埋蔵文化財センター収蔵写真資料から作成

スライド3：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第4図より作成

スライド4：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の巻頭図版1より作成

スライド5：発表者が作成

スライド6：広島県立埋蔵文化財センター収蔵写真資料から作成

スライド7：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第26図より作成

スライド8：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第26図を修正して作成

スライド9：広島大学埋蔵文化財調査室『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書

IV』2007年 の第238図を修正して作成

スライド10：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第26図を修正して作成

スライド11：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第26図を修正して作成

スライド12：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第26図を修正して作成

スライド13：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第26図を修正して作成

スライド14：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第26図より作成

スライド15：発表者が作成

スライド16：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第90図より作成

スライド17：発表者が作成

スライド18：稲田孝司『旧石器人の遊動と植民・恩原遺跡群』2010年 新泉社 の第43図を修正加

筆して作成